

# 新学長 vs 新会長 特別対談

## 地域に生きる 高知女子大学の展望



第41号  
主な内容

特集 ● 新学長 vs 新会長 特別対談  
地域に生きる高知女子大学の展望 1〜5頁  
しらさぎ会と高知女子大学を巡る一年 6頁 会長挨拶 5頁  
各支部のこの一年 8、9頁 19年度総会報告 10、11頁  
恩師はいま(趣味)シリーズ 生田勝彦先生 12頁

● しらさぎ会総会は  
5月の第3土曜。従って今回は  
2008年5月17日

母校の高知女子大学は、日本でいちばん古い歴史を持つ県立の女子大学として、もろもろの改革を経つつ、今日を迎えています。そんな県立大学のさらなる発展のために、卒業生は例えばどんなことができるのでしょうか。「大学の一大事に、何ごとをおいても駆けつけた諸先輩方の気迫」はいまも語り草になっています。

昭和29年7月に突如として起こった廃学問題を、『高知女子大学三十年史』は、県財政の慢性的窮乏の中で非生産的事業と見なされがちな教育行政で、「抵抗の弱い女子大がねらいうちされた」と記しつつも同時に、「強固な県知事の意志をおし返して、女子大存続をかちとったばかりか、更に念願の文学部の新設にまで発展させたこの闘いの歴史」を、「最も輝かしい一頁でもあった」とも、誇らしげに謳っています。

ところで、まさにその激動の時代を現役の学生で過ごした宅見美佐子さんがこの春、しらさぎ会の会長に就任しました。新たな大学問題も賑やかな昨今、お披露目も兼ねて、山根洋右新学長と新時代への展望など話し合っていました。

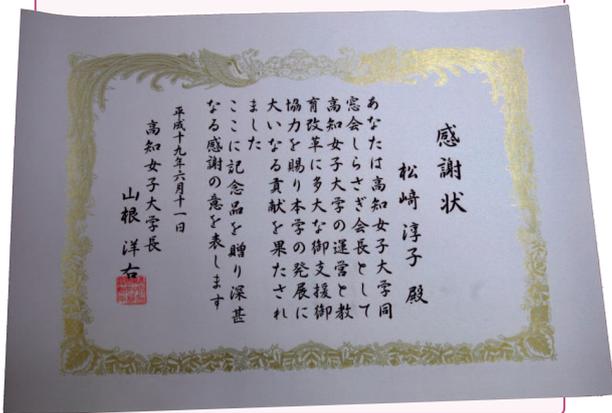
▼2007年8月17日(金)に、高知女子大学学長室で対談後の記念撮影。山根洋右学長と、しらさぎ会の宅見美佐子会長



### 山根洋右学長から 松崎淳子前会長に感謝状



▲6月11日に学長室で。撮影は嶋田由紀学長秘書



## 五月の鯉のぼりの吹き流し

宅見会長 ● 気候も風土も県民性も、ご出身の出雲の国と土佐では随分違うでしょうねえ。山根学長 ● 違いますねえ。倉橋由美子さん(高知県土佐山田町出身の作家)がエッセイのなかで五月の鯉のぼりの吹き流しのようにと云っていますが、土佐の人はハラに何も残さない。宅見会長 ● 思ったらすぐに言葉に出すという傾向がありま

すからねえ、だから、土佐人とは付き合ひやすいでしょう。山根学長 ● そうです。山陰はその歴史も土佐とは全然違います。大和朝廷との戦いに敗れ、その代わりに出雲大社が建てられました。その両わきの大田市と松江市には今でも武官を祀る物部神社(もののべ)があつて、見張っていると思われちゃいますよ。そういうお国柄ですから、思ったことを軽率にいうと身を滅ぼすと思うんです(笑)。

**宅見会長**●そういう意味では鯉の吹き流しの県民性のところに移られて生活はしやすいんじゃないですか？

**山根学長**●そうですね。気候もいいですし、食べ物もいいです。

**宅見会長**●高知は食材はホントに豊かです、土佐人はグルメです。まあそういうことでおいしいものもたくさんあがっていたらいいです。

この7月7日には山根学長をお迎えして同窓生の親睦も兼ねた学長特別講演会を開催、

## 高知女子大学の現状と課題

**山根学長**●着任して5カ月ほどになりますが、当面している問題は、先般の講演会でも申し上げた通り、次の8点に集約できると思います。キャンパス移転問題は四つの学部の教授会での議論を重視しています。副知事さんとは月に2〜3回ほど非公式の協議の場を持って話し合いを進めてはいたので、6月県議会を経てフリー



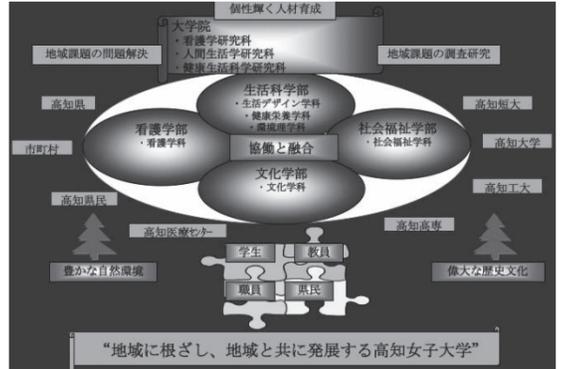
▼7月7日の講演会には100人のご出席をいただいた

▼学長特別講演会資料より

### 高知女子大学の課題

- ・キャンパス統合問題
- ・男女共学問題
- ・大学名称問題
- ・新学部構想問題
- ・短大廃止問題
- ・生活科学部再編問題
- ・法人化問題
- ・永国寺キャンパス問題

▼7月7日の学長特別講演会資料より。高知女子大の将来像



ズ状態になってしまいました。共学問題は名称問題とも絡んでいきますし、「名称はそのままに実質化を進める」と、前学長の時代に知事と合意が形成されたと聞いております。

新学部問題は現在協議中です。短大問題は仲学長代行のお考えを尊重する形で見守り支援をと考えております。

学部再編に関しては、文化学部と生活科学部で合同ワーキンググループを作り、生活科学部が再編の対象になっているのだから再編問題は生活科学部の意向を大切に、方向性を出して欲しいと思っています。

公立大学の7割がすでに法人化しており、いずれ県からも



います。そういう文化学士のある土佐で、全国から学生を集められるような高等教育システムを、しかも団塊の世代も自由に学べるような、いわばバイキング料理を提供できるようなシステムをきちんと整備、充実したいと…

しているとか、社会科学系の学部の新設にしても具体的な中身が見えません。

**山根学長**●それはおっしゃる通りです。県は高等教育体制のさらなる充実を目指して、こういう計画を打ち出されたわけですよ。

大きい企業も無い、人口は減少している高知県で、「人材育成立県」と私どもは呼んでいます。明治以来、土佐人はその文化・歴史のなかで颯爽と登場し、そして立ち去って

## 学内決定のサイクルを守る

**宅見会長**●そういう意味では現状では女子大の将来像が見えにくい部分がありますよね。看護学部や社会福祉学部の将来は見えているとは思いますが、その他の…例えば生活科学部では廃止の学科も検討委員会なんかでは提案もされているようですが、大学と

**宅見会長**●つくばのような学園都市化ですね。

**山根学長**●そうですね。それがひとつの大きな教育産業であり、地域おこしにもつながると思うんです。そういう意味で県と大学の関係もたいへん大事になってきます。県の方も高知の教育をどうしようかという原点に返って再スタートを切るようなつもりで、話し合いを進めましょうと、いま話しているところです。

してはそのことについて検討がなされていないようですね。今年、たまたまオープンキャンパスに顔を出したんですよ。なかなか盛会でした。訪れている学生は、来春ではなく2年3年先の進学先を決めるためというのが多いんですね、県外からも通々きてるんです。

遠く県外からの同窓生も含めたいへん大勢でお聞きできました。ありがとうございます。こういう時期ですし、同窓生全体へ向けて新しい学長先生のご紹介を兼ねてお話を承れたらと、このような対談が企画されたわけなんです。

▼生活デザイン学科のオープンキャンパスには県内外の高校12年生も多く訪れ、ユニバーサルファッションについて皆で考えた



今年のオープンキャンパスを参考に生活デザイン学科へ進学を決めたが、いざ受験しようとする時点で学科が無かった…では大学としては非常に申し訳ない、何と無責任な、といわざるを得ません。

**山根学長**●全国の大学は少子化を念頭に学部再編を考えていますから、どっかの段階でそういう事態は出てくると思います。ですが、できるだけ早い段階でホームページにも発表し、募集要項にも印刷する。印刷したら責任持って募集もし、学科を続けることを保証する、そういう風に考えております。

**宅見会長**●学生さんの側から

その話が出るだろうとは思っています。調査研究を行ないつつ、県のご支援をいただきながら、この作業もいざれ進めていかなければならないと考えております。

永国寺キャンパスは副知事さんと話をし、土地を売るということはしないという言葉をいただいております。この土地は大学の持ち物ではなく、しかも文化遺産でもあり、県議会にかけないと処理できない

## 県民が納得できる詰めた案

**宅見会長**●こうしてお聞きして、どの問題も出口が見えない状況のようですね。三位一体の改革が国主導で進められるなか、財源の乏しい高知県で、それでも財源を女子大改革に充てようという計画

が進んでいたらけれど、少し計画に甘さがあったのかなあと、思わざるを得ません、生意気をいわせていただきます。施設充実の予算を確保するためには、県民を納得させるための詰めた改革案が必要だと思っております。



例えば文教地区として恵まれた環境にある永国寺キャンパスを活かして欲しいと多くの県民が期待をしていますが、どう活かすのか、コミュニケーションの構築もあるが模索

▼7月7日の学長特別講演会資料より。高知女子大学の基本戦略

1. 学生と教職員が志を高く協働し、自律的・主体的・持続的に内的発展を続ける意識改革と大学づくり
2. 学生ニーズ、社会ニーズ、国際的ニーズを重視した大学の個性化と生き残り大学政策の展開
3. 地域的・社会的諸課題にたえず敏感で、先見性に対応し、機動的に問題解決に当たる「地方分権の時代を支える」知的・文化的拠点の形成
4. 女性高等教育の国際的標準化と高知県と世界を包む「グローバルとローカル」の視点に立った教育、社会貢献活動、研究の展開

私はこのサイクルをきちんと回したいと考えているんです。その中で本当に渾沌として高知女子大が危ないというときには私の責任でもって私が腹を切る覚悟で、私が決めます。

**宅見会長**●大学の出身を決めていくときには手順が必要だからヒマがかかるというのも解るんです。ただ、学生さんを持つて検討して欲しいということでは、と思います。

**山根学長**●おっしゃる通りです。精いっぱい努力もしております。諸般十分考慮しつつ、IT時代ですから決まったことはホームページなどでもすぐ公表すべきと考えています。

## 法人化の精神は自己責任の強化

**宅見会長**●大学の法人化については先ほど学長もおっしゃいましたが、法人化をする精神

には「大学の自己責任の強化」が目的のひとつにあると聞いております。高知女子大の改革

### 松崎前会長の思いを受けていま…



## 真に求められる同窓会活動を見つけたい！

高知女子大同窓会しらさぎ会・会長  
宅見 美佐子

### 「生き字引」の後を受ける覚悟

5月の総会で、松崎前会長から会長を引き継ぐことになりました。高知女子大の、そしてしらさぎ会の歴史と共に歩んでこられた生き字引のような松崎前会長の後を受けるには力不足であり、なかなか決心が付きませんでした。役員の方々や会員の皆様のご支援・ご協力をいただきながら、その責を果たしていかなければと覚悟を決めたところです。

### かつてない大きな変革期を前に

ところで、ひとつ社会に目を向ければ、いま、地方で出来ることは地方で、民間で出来ることは民間でという国の方針のもと、補助金の削減・地方交付税の見直しなど三位一体の改革が進められており、地方交付税を受けなくてもよい東京など首都圏は別として、その他の地域においては、年ごとに財政面での厳しさが増しており、税金、保険料・医療費など、私たちの生活でも負担が増していることを実感しているところです。

また、市町村合併が進められ、そう遠くない将来には、今までなじんできた市町村あるいは都道府県という行政単位から道州制への移行という、かつてない大きな変革期を迎えようとしています。

### 母校の将来を思う関心の高さの表れ

7月には山根新学長をお迎えして、「高知女子大学の現状と課題、あわせてしらさぎ会へ期待するもの」と題しての特別講演会を開催いたしました。100人にあまる方々にご参加くださいました。母校の将来を思う関心の高さの表れと感じているところです。

前会長より引き継いだ課題をしっかりと受け止め、この厳しい状況をどのように打開していくのか、同窓会として支援できること・協力できることは何なのか見極めながら、今後の活動に生かしていかなければと考えています。

会員の皆様のご支援・ご協力を重ねてお願い申し上げます。

しらさぎ会事務局 e-mail:sirasagi@cc.kochi-wu.ac.jp  
電話とfax (088) 875-7107 水・木の10時～16時

んでもすよねえ。この60年積み上げて来た財産のなかで、一番大きいのが女子教育ではなかったかと考えます。男女共学のことが出てきましたが、この大きな財産を簡単には捨てないで欲しいんです。  
**山根学長** ●「天の半分は女性が支える」という言葉があります。私が、私はこの言葉を本当に大事にしたいと思っています。  
本学は女子大学という看板を掲げているのですから、新しい図書館がきたら、一部屋を「高知・全国・世界の女性資料センター」のようにしていただきたい

て、そこでは日本と世界の女性学に関する貴重な文献が見られる、  
**「専門家市民」は地域で頑張る**  
**宅見会長** ●図書館に限らず、高知女子大の売りというところで考えていただければと。  
**山根学長** ●そうですね。男女共同参画社会作りということを大事にしたいと考えております。  
**宅見会長** ●高知女子大はこれを売りとして生き残って欲しいと思っています。社会の変革はまださざ波が起きた程度ですからねえ。

そんな風にしていただきたいと思っています。  
**山根学長** ●お茶の水女子大や奈良女子大はそういう看板を掲げて、すでにCOEなど文科省の大型研究費も取っているんですよ。  
**宅見会長** ●卒業生には国際的に活躍する人も出ましたし、全国レベルで活躍する人もおられます。そして地域のリーダーとして頑張っている人も大勢います。  
私は高知女子大学が長年に



ています。  
**山根学長** ●先日、しらさぎ会高知県支部の研修会で四十市に行った折、「専門家市民」という話をしました。皆さん地域で本当にいい仕事をされてるんですね。このネットワークをさらに強固にしていって欲しいと思っています。  
**宅見会長** ●課題山積のなか、貴重なお時間を頂戴しました。同窓会は今までもつねに大学の後方支援でやってきたわけですから、今後ともそのスタンスで見守っていききたいと思っています。(了)

▼永国寺キャンパスなどでは、一般県民を巻き込んだ判りやすい地域貢献シンボが、身近なテーマを選んで折々に開かれている



**宅見会長** ●いまの学長のお話には県立大学の存在意義についても言われたと思うのです。公立大学の存在意義はやはり「地域貢献」というのが大きなポイントになっていくように思うんですが。  
**山根学長** ●いままでの大学は教育と研究だけにとどまってきた面もありました。本当の研究は何か、教育とは何かを深く考えていくと、県民に役立つ地域に貢献できる大学であるべきだと思います。県民が高知女子大に誇りを持てるような、そんな大学

でありたい。ただし、教育と研究をお座なりにして地域を走り回って、委員ばかりやっているというのではなく、教育、研究、社会貢献、もっといえば国際貢献になりますが、この三位一体を目指すべきだと考えます。  
**宅見会長** ●新しいことを研究していただいて、その知識を県民市民の側は先生方から戴けるという点では、誠に判りやすい地域貢献といえ、それが大学の存在意義にもつながっていくのでしようが、するとやっぱりキャンパス問題がひっかかってくるんですけど…。  
県民市民にとっては来やす

い、集いやすい処に大学に在って欲しいというのは大きい願いです。永国寺にキャンパスは在って欲しいんです。県民市民向けの講座で新しい知識や研究結果を伝えて欲しいと思いますし。  
**山根学長** ●いま会長さんからご要望のあった集積拠点としての再開発は可能だと思います。  
**宅見会長** ●それに関連して地域創生センターというものが女子大のなかに発足している聞いてますが、活動状況は？  
**山根学長** ●センター長の佐藤先生を中心に一生懸命やっています。地域創生とは何かという点なんですが、企業とタイアップして戦略性をもっていたら、住・学、官・学、

産・学など地域創生センターが核となって、地域の問題を速やかに解決していったらいいと思います。産官学住共同でそれぞれがネットワークを組んで、生活環境を整えていく。そういうことを行政にも要望しています。目には見えにくいのか、その努力も必要ですね。  
**山根学長** ●広報活動も戦略的な見直しが必要と考えております。企画力、創造力、ネットワーク力が必要ですね。

## 地域貢献とキャンパス問題

ある種の哲学や価値観が厳しく問われるものだと考えます。哲学を持たず、決められた教育だけをいくら熱心に行なってもダメです。学生と四ツに組みながら地域に活きる学問を究めて欲しい。とくに高知の場合は活きた教材がたいへん多いんです。総務省によれば限界集落と呼ばれる集落が高知は全国でいちばん多いんです。39のムラが減りつつあると云われてるんです。そういうところに出かけて行って、人

## 高知の女性資料センターから

**宅見会長** ●すでに30年経ちますが1975年の国際婦人年以後、地方でもそれまでの男が上、女が下という縦の関係ではなく、パートナーとしての横の関係作りに向けた取り組みが始まりました。私が高知市役所で初代の「女性担当」を仰せつかったこともあり、女性問題には非常に関心があるんですが、高知女子大の存在意義のひとつに国際貢献が挙げられると思います。アジアの国々

# しらさぎ会と高知女子大学を巡る一年

## 昨年9月県議会に提出の基本設計は否決、補正予算は承認

中国前漢の歴史書『漢書』にすでに「朝令暮改」の故事は出てくるようですが、県立大を巡る一連の政策にこそ、この故事がよく似合うのではないのでしょうか。

## 降って湧いた駅前移転構想は白紙撤回だが、また課題が

昨年暮れに集められた「永国寺キャンパス存続署名」は最終的には1万9千筆に達し、翌年つまり本年1月の「駅前移転構想白紙撤回」へと繋がることになりました。

つまり、大学側にとっては「看護学部と社会福祉学部の拡充、健康栄養学科の池キャンパス移転に伴う調査設計のため」の補正予算だったのですが、県当局は「文学部を含む移転」ということだったでしょう。期せずして「永国寺キャンパスを残して欲しい、手放さないで欲しい」という声が上がります。高知短大生や高知女子大学の学生からは「永国寺キャンパス」を残すための署名活動が始められました。



2007年4月17日に学長室で開かれた「永国寺キャンパスを残し発展させる連絡会」では山根学長に現状報告。この会には松崎会長代理の企画渉外担当役員が出席した

論を深める中で設置する場所を決定したいと考えています」などと、述べられています。

結局、県当局のこの「基本計画」が9月議会で否決されたことはご記憶でしょうか、「補正予算」は承認され、これが新たな行き違いに発展します。



2007年6月2日に永国寺キャンパスで開かれた高知女子大生の討論会「永国寺キャンパス発展のための討論集会」にはしらさぎ会本部役員は新体制の宅見会長、川口・坂本両副会長が出席した

駅前移転が降って湧いた構想なら、それを白紙に戻すという話もまた短兵急な印象を免れませんが、何はともあれ白紙撤回は、

## 女子大統合事業の関連予算削減で新たな展開へ

そのような県立大学と県当局との折衝をしらさぎ会はずっと見守ってきました。5月にはしらさぎ会総会が開かれ、会長を始め役員交替もありましたが、「大学の後方支援」というスタンスは大事に、いままた9月定例会議の始まる季節を迎えています。

統合に否定的意見が続出。県議会6月定例会の最終日、県が最重要施策と位置づけた女子大統合事業の関連予算が削減されるといふ修正案が提出され可決されるという、異例の事態を受けての9月県議会を迎えることになりました。

# しらさぎ会の伝言板 レーダー拡大版 皆さんの声の行き交う情報交差点

## しらさぎ会60周年記念誌編纂へ向けて仲間募集

高知女子大学の前身である高知女子医学専門学校の開校は昭和20年8月8日。昭和22年3月31日付で、文部省より県立女子専門学校としての設立認可があり、こうして女子医学専門学校から転換した「高知県立女子専門学校」が設立されることになった。

その第一期生が3月に卒業された昭和26年（1951年）の夏8月25日に「高知女子大学および女子専門学校同窓会結成大会」が開催され、会則や役員が決まり、ここに同窓会しらさぎ会が発足することになった。

その夏から数えて57年目、昭和22年の女子専門学校設立からは丸60年を迎えた今年、『しらさぎ会60周年記念誌』編纂のための準備委員会が立ち上がりました。

人目は、しらさぎ会の初代会長で、高知女子大名誉教授でもあり「高知女子大の生き字引」ともいわれる松崎淳子先生。さらに「高知女子大五十年史」を中心となって編纂された高知女子大名誉教授

の寺内アヤ子先生と、やはり高知女子大名誉教授で国文学が専門の藤田加代先生。お三方ともこの春で「しらさぎ会」の役員は退かれましたが、記念誌編纂にはやはりどうしても一番に力になって欲しい方々ではないでしょうか。

そして、この5月の役員改選で企画渉外係に就任した山重慶さんと橋村夏世さんも役員の立場から準備委員会に加わっています。会長と副会長、名もやはり役員の立場から委員会に入ります。

記念誌として誰もがテキストにも使え、学生にも語れるような「しらさぎ会」ならではの視点がかたいへん大事だと考えます。

そこで、編纂委員として我こそは！という意気込みをお持ちの方にもぜひメンバーに入って欲しいのです。しらさぎ会事務局

局までご一報ください（088-875-7107）。この8月30日の第1回準備会を経て、第2回は11月20日に開く予定です。そこで、本格的な編纂委員会としてスタートが切れると考えています。



2006年9月、百歳の村田菊子先生のお祝いに、家政学科第一期生の高知県内に住む同級生が全員で駆けつけた

## 百歳の幸せ力

中央の真つ赤なトレーナー姿は、昭和38年から47年まで家政学部で教鞭を執られた村田菊子先生。その「百歳の百賀」を慶んで、昭和43年3月卒業の家政学部家政学科一回生のうち高知県内に住まう6人全員がお祝いに駆けつけました。

永尾朱美さん（左から3人目）によると、当時は家政学科が始まったばかりで、先生も生徒も「これからどうやって学科を創りあげていこうか」と必死の頃で、皆がとつとも仲良しだったとか。22人の同窓生は全員健在で、家

族にも健康にも恵まれ、「皆で心から嬉しい村田先生の百歳をお祝いできました」とのこと。

こういうおめでたいニュースは確かに周りにも元気を伝染させる「幸せ力」を実感させますねえ…。

## グラマン機の残像

この夏、50周年記念高知学芸展に出品された谷岡久（愛称たにきゅう）先生の油絵の大作「グラマン機の残像」。昭和20年3月28日、日章の飛行場へ始まった空爆を自撃した当時14歳の谷久少年の「網膜に焼き付いて離れない」衝撃が作品化された。襲来機グラマンは「襲いかかる手」になり、「ノーマアの願いととも昆虫↓標本のイメージに重なった」と解説にはある。



昭和51年から平成8年まで美術の先生を務められた谷久先生の2007年夏の大作。かるぼーとでの50周年学芸展に出品された

## 嬉しい著書の出版

著者は国文学科卒業の上原（長崎）由枝さん。62年前、7歳の少女だった作者が、太平洋戦争に見



た、傷つた、愛憎を胸に懸命に生きた子どもの姿を、山村の生活や大人の生き方に重ねて、心を込め鮮明に描き出します。子どもの喜びや痛みを追体験し、それが今を生きる子ども

の心に受けとめられた時、現代の子どもの「未来をどう生きているのか」の指標を得るでしょう。記憶し、記録しなければならぬ人間の真実をにじませる作品。胸打たれる面白い児童文学です。新風舎刊



生活理学科卒の土岐佳子さん作。よく質問されるが冠婚葬祭事典には載っていないような豆知識から葬式にまつわる川柳60句など、地元の愛媛でベストセラーにもなった葬式テーマの決定版。楽しみながら「そのとき」を勉強できる実用本をぜひ同窓生にも読んで欲しい。文芸社刊

## 風の便りで

『会報しらさぎ』では同窓生の皆さまのさまざまな場面での活躍を念じ、また探してもいます。風の便りでのご活躍が聴こえたら、今後とも西へ東へ、心からすつ飛んで参る所存です。♡

### 徳島県支部

#### ネットワークで盛り上がり

徳島県支部は主に教員の方々がネットワークを利用

して盛り上げてくださって、2年ごとの同窓会を開催しています。昨年はしらさぎ本部から森岡三重子先生をお迎えして11月に徳島東急インで開催しました。高知女子大のおかれた状況を伺って、その後の署名活動にも協力させて頂いたことでした。今後も2年毎、11月の連休ではない土曜日に開催と決定し、私が会長をお引き受け致しました。微力ですが皆様と本会を盛り立てていきたいと思っています。

徳島の話では、今年公開された映画「眉山」に引き続き、テレビドラマ「眉山」の撮影が行われています。「阿波 DANCE」という映画も8月末から上映されます。また、10月27日～11月4日には、おどる国文祭が開かれますので、お近くの方はぜひお立ち寄り下さい。川西への連絡は下記まで。川西千恵美 (看 26)

Tel & Fax 088-633-9047 ckawa@medsci.tokushima-u.ac.jp  
お問い合わせは、徳島県国民文化祭課 088-621-2114

### 関東支部

#### 年々着々、支部総会と親睦会を開催

関東支部では、支部としての活動は主に支部総会・懇親会の開催ですが、母校の改革が進む中での署名活動などに微力ながら参加させていただいております。

今年は総会・懇親会の開催年に当たり、下記の通り開催を予定しております。多くの会員の方々のご出席をお待ちしております。9月上旬には会員の皆様にご案内状を発送すべく作業を急ピッチで進めております。

今回は、母校から文化学部長の水谷洋一先生と看護学科元教授の山崎智子先生がご出席くださる予定です。水谷先生には改革構想が進む最近の母校の様子が、山崎先生からは懐かしい頃のお話などをしていただけないかと思っています。

新装なった都心のホテルのお料理をいただきながら楽しいひとときをぜひ楽しんでほしいと強く願っております。古谷孝子 (英文科8回生)

とき 平成19年11月18日(日)12:00～15:00  
ところ グランドプリンスホテル新高輪 白鳳  
港区高輪3-13-1 会費 10,000円

### 東海支部

#### もっともっと会員の輪が広がることを期待しつつ

東海支部は228名、約半数は愛知県在住、あと岐阜、長野、静岡等です。平成10年より毎年、11月の第2土曜日にロイヤルパークイン名古屋「京たちばな」で同窓会を持っています。昨年度の出席は11名とやや寂しかったのですが、気持は女子大時代に帰り大学時代の思い出に花が咲き、趣味のこと、健康のこと、家族のことと話題が広がり、元気をいただきました。昨年初めて配偶者の介護が話題にあがり、あらためて年齢を重ねたことを実感しました。今年は第3土曜日に計画しています。会員の輪が広がることを期待しつつ。(支部長 西尾佳代子)



### 41回目を迎えたしらさぎ会愛媛の集い 愛媛県支部

#### 愛媛会員は年々増え、500人を突破しました

愛媛に住所のある会員さんは年々増え、500人をこえました。41回目の今年は家政学部の柴山キヨ子先生をお迎えして奥道後竹寿庵で開催されました。

竹寿庵は市街地を離れた自然豊かな立地で、日本庭園の中に佇む茅葺きの風流な建築で、古き良き時代を彷彿とさせる別世界です。著名な書や大皿を眺めながら美味しい昼食をいただきました。

宴もたけなわ、ビンゴゲーム大会が始まり、数々の賞品に皆しばし時を忘れました。来年も元気で逢えることを願いながらのお開き。その後はジャングル温泉に入ったり二次会で話の続きに興じたりと楽しい一日となりました。(平成19年幹事 近松昭子 土岐佳子)

### 広島県支部

#### 新鮮で刺激を感じる同窓の集いの楽しさ

しらさぎ会広島県支部は、2年に1回、会を開催しており、昨年がその年でした。瀬戸内沿岸部の山々が紅に染まり始めた11月11日のお昼。会場は、あの安芸の宮島への入口、JR宮島口駅前の、あなご飯で知られるお店です。参加者は9人という、ちょっと寂しい会でしたが、それはそれで和やかな時間でした。「高知女子大学学歌」の話やそれぞれのクラス会の様子、住んでいる地域での活動や趣味の話、さらには高知への行き帰りの際のお勧めのスポットなど、さまざまな話が飛び交って、あっという間に予定時間が過ぎてしまいました。次回は、生活科の方に幹事役をお願いすることを決め、また、事務局を田中(旧姓延安)華世さんが引き受けてくださると嬉しい申し出に感謝しつつ、お開きとなりました。

いつも思うことですが、年齢や専攻の違う方たちとの集まりは、新鮮で刺激を感じるものですね。来年の開催も楽しみにしています。(支部長 田中めぐみ)

### 京阪神支部 ※お揃いの記念写真は右へ

#### 高知女子大=心のふるさとを実感する有意義な親睦会

総会並びに親睦会を昨年秋11月23日勤労感謝の日、京都堀川にあるホテルにおいて開催しました。東海支部より2名の方に友情出席をいただき、二府四県から30名の会員の参加と、本部よりは松崎淳子先生と川口順子先生に遥々おいでいただきました。懐かしい、親しく柔らかな先生の土佐弁で、たつぷりと母校の近況をお伺いすることができ、参加者全員がすっかり女子大時代にタイムスリップしたかのようなひとときでした。

最初は慣れない幹事役に不安や戸惑いばかりでしたが、ご協力のおかげで終始和やかで温かな雰囲気の中で散会できました。年代を超え、「高知女子大=心のふるさと」を実感する有意義な親睦会になったことにほっと胸をなでおろした次第です。次回は生活理学科に引き継ぐ予定ですが、支部の状況に応じ幹事役も会員も無理のない形で気軽に参加できる会の存続のため今後ともご理解、ご協力をお願いします。(家政学科卒 平岡智恵)

# しらさぎ会・各支部のこの一年

山口県支部は発足へ向けて準備中、岡山県支部は休眠中

### 高知県支部

#### 改選を経て元気印の支部役員活動

しらさぎ会の用語で母校を訪れると、在校時と校舎も変わっていますが、一歩入ると学生時代にタイムスリップ。懐かしい思いがしました。高知県支部も今年役員改選期で二名が退任。十二名のメンバーで年齢、出身学科ともにバランスよく引き続いて「元気印のはちきん」さん達です。本家土佐弁で自由闊達に発言、侃々諤々本音の議論。会議は二時間以内を目指し、明るく笑いが絶えない活気ある役員会が開かれています。

昨年度の大学問題では、署名活動(街頭にも出る)、副知事、議会各会派に陳情書を手交、議会、委員会の傍聴(大学問題の質疑)など本部とともに後方支援に参加。母校も創立六十周年を迎えますが、活動のなかで県民から「頑張りよ」「応援しゅうき」の有難い声に元気が出る反面、高知女子大学が何処にあるかも知らない県民もけっこういることにショックを受けました。地元支部として県立大学は、県民世論の動向に影響することを考えると無力感を味わいました。

#### 地区別交流会「講演と懇談」で活発に活動

三年前から会員相互のネットワークづくりを図る地区別交流会「講演と懇談」を開催する時、地元利で青山英康前学長のご協力で、会に彩りを添えていただきました。青山先生は県内の政財界人の集まり、老人クラブ、健康づくりの会等色々の場で講演の後、必ず女子大問題にふれ、母校の価値、素晴らしさを一生懸命説明してくださいました。私もある会で聴き、実のある広告塔役の先生に感謝感激しました。

今年からは地区別の会員間の交流に合わせ、地域の人々にもミニ研修会に参加を呼びかけようと役員会、地区の世話人さんとも話し合いました。希望のテーマによる研修会など開いて地域貢献へのつながりになればと思っています。昨年度、地区別ミニ研修、集まりのために経費のご支援「年会費千円」をたくさんの方からいただきました。

できました。本年度もお願いしていますが、支援金を地域の会員の交流、地域の方を交えた研修などに役立てたいと考えています。

さる5月に支部三役は今年4月に就任された山根洋右学長にご挨拶にあがりました。支部活動の内容、方向性などお話しするなかで、学長からは講師などの「派遣協力もする」との温かいお言葉をいただきました。山根新学長を囲む交流会「講演と懇談」

山根学長を囲んで交流会「講演と懇談」へお忙しい学長は休日返上で7月は四万十市、8月は安芸市の会場に出席。講演では「大学の現状」、「〇〇市人間尊重のまちづくり」と示唆に富む内容でした。四万十市での懇談のなかで「酸性雨」の質問が出て学長から回答。酸性雨のテーマで会員と地域の人も呼びかけ研修会を開いたらと、出席会員の声もありました。

学長が会員に期待を寄せているのは、卒業後色々の分野で活躍してきた会員は、社会資源で「専門家市民」である。地域の問題に目を向け、地域の人たちと協力しあつて住みよいまちづくりの役割の一端を担うということでした。

支部会員は2千9百余名登録されています。現職でバリバリ活躍中、孫のお守り、老親の介護、ボランティア活動、セカンドライフを満喫等、人生いろいろです。同窓会員から二人の市議誕生

ここで、一人の会員が新しく歩み始めた道を紹介いたします。土佐市と高知市に卒業生から初の議員が誕生。土佐市の議員は大森陽子さん、土佐市の病院で管理栄養士として給食管理に携わり、高知市の議員は岡崎邦子さんで、高知市の小学校で児童指導員として児童と関わるなど、お二人とも素晴らしい仕事をしてこられた方です。市民のため生活体験豊かな女性の視点から、教育、医療福祉、環境問題などの分野で活躍が期待されます。それぞれの地で、「地域が元氣」になるように頑張つてほしい。私たちも「もう年じゃといわず」、お互い「私も元氣」に過ごせますよう願っています。(支部長 宮田 福)

### 九州支部

#### 改めて新たな和と輪のできる同窓会

今年は11月に福岡で九州支部の同窓会を計画しています。小林さん、横田さんを中心に準備していただいています。福岡は会員も多く、九州各県からの交通の便もよいのでたくさんの方の参加を期待しています。久しぶりに女子大生に戻つて懐かしいひとときを過ごしませんか。2年ごとに開催してきましたが平成7年福岡、平成9年鹿児島、平成11年福岡、平成13年熊本、平成15年福岡、平成17年は沖縄でやりました。沖縄の栗岡さんは取り組む中で県内の卒業生と知り合うよい機会になったと話されましたが、大分や宮崎、佐賀、長崎でも実現できるとよいと思っています。(支部長 宮川麗子)

### 香川県支部

#### 香川県支部総会と昼食を兼ねた懇親会

07年11月11日(日) 11時～14時  
於・高松国際ホテル  
高松市本町2-9-1  
電話087-821-1511  
しらさぎ会本部の香見美佐子会長による「母校の近況について」のお話もあります。  
会費は5千円  
年会費(19年20年の2年分)は千円です。  
大勢の皆さまのご出席を心からお待ち申し上げます。  
(支部長 川田昭子)

### 京阪神支部 より送られた皆さまお揃いの記念写真です



平成18年度会計報告

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

Table with columns: 収入の部, H18年度予算, H18年度決算, 備考. Rows include 基本金, 一般会計, 在学学生一般会計預かり金.

Table with columns: 学部預かり額, 備考, 大学院預かり額, 備考. Rows for H15, H16, H17, H18年度入学.

Table with columns: H18年度予算, H18年度決算, 備考. Rows include 事業費, 事務費, 報償費, 賃金, 通信費, 予備費, 合計.

〇一般会計 次年度繰越金 収入(一般会計)-支出=1-2=9,805,380-3,700,033=6,105,347円

【平成18年度の目的寄付】 『駅前複合施設への学部移転反対』および『永国寺キャンパスを残そう』の署名活動に利用

Table with columns: 収入※1, 支出※2, 内訳, 金額, 備考. Rows include 繰越金, H18年度寄付, H18年度寄付(現金), 合計.

監査報告 領収書、出納簿、預金通帳等を監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

しらさぎ会のホームページ kochi-wu.ac.jp/~sirasagi/ しらさぎ会のe-mail:sirasagi@cc.kochi-wu.ac.jp

連絡先のお知らせです。 誌面のおちこちに「しらさぎ会活動にご協力をお願いします」とか「風の便りをお待ち」とか書いていますので、連絡先を再び書いておきます。

●退職平成18・12・31 生活科学部助 手島崎佐智代。(平成19・3・31学 長 青山英康 生活科学部講師片山 一男 生活科学部助 手本村めぐみ 文化学部教授住友弘 文化学部助 教授青木淳 看護学部助 手高見千恵 採用(平成18・10・1)生活科学部 教授渡邊浩幸。(平成19・4・1)学 長山根洋石 文化学部講師吉川孝 看護学部講師三浦かず子 山中福子 看護学部助 教升田茂章・中河希希。

●会員数のお知らせです。 しらさぎ会員は、この春 学部卒 232人(生活科学部・文化学部・看護学部・社会福祉学部)・大学院修了30人(健康生活科学研究科・看護学研究科)人間生活科学研究科を卒業 総勢9千285名となりました。

平成19年度予算案

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

Table with columns: 収入の部, H18年度予算, H18年度決算. Rows include 基本金, 一般会計.

Table with columns: H19年度予算, 備考. Rows include 総会費, 卒業祝い, 入学祝い, 企画・講演等, 支部強化, 会報, 会議費, 奨学金, 小計, 事務費, 報償費, 賃金, 通信費, 予備費, 合計.

(※前頁の「18年度役員会開催状況」の続きです) せる連絡会。11月6日署名活動に加わることに決定 街頭署名4日。締め切り12/2 しらさぎ会は11月中②徳島支部の活動報告③大阪支部での活動11/23 予定 第7回平成18年12月7日(木)18:00~報告①陳情書署名について しらさぎ会5,860名 その他12,000名15,000名は超える見込み②支部会の報告 京阪神支部③学内の体制④事務局報告⑤JICA 対応について⑥今後の予定 第8回平成19年1月25日(木)18:30~20:45 審議①卒業生、新入生への準備について②役員改選について 報告①県議会議長への陳情書提出について12月11日18,712筆②12月県議会報告12月11日女子大関係及び駅前複合ビルについて傍聴③連絡会(1月13日)署名活動終了④タウンミーティング2月12日開催予定 第9回平成19年2月22日(木)18:30~21:00 審議①総会(5月19日・土)準備②役員改選③入会金の納入方法④卒業生への案内文書 第10回平成19年3月31日(木)12:30~審議①平成18年度活動報告案②平成18年度会計報告案③平成19年度活動計画案④平成19年度予算案⑤役員改選報告①奨学金の申請 第11回平成19年4月26日(木)18:30~審議①平成18年度活動報告案②平成18年度会計報告案③平成19年度活動計画案④19年度予算案⑤役員改選⑥総会役割分担報告④奨学生

平成19年度しらさぎ会総会報告

5月19日(土) 13時00分~14時30分 永国寺キャンパスで

式次第 開会の言葉 名誉会長挨拶 議長選出 しらさぎ会会長挨拶 1. 報告事項 2. 平成18年度活動報告 3. 平成18年度会計報告 4. 平成18年度会計監査報告 5. 審議事項 6. 平成19年度活動計画案 7. 平成19年度予算案 8. 役員改選 9. その他 10. 閉会の言葉

平成18年度活動報告

6頁の「しらさぎ会と高知女子大学を巡る一年」と重複する部分もありますが、分かりやすくするために、しらさぎ会の動きに絞ってご報告いたします。

振り返ると、「高知女子大学改革案とそれに伴うキャンパス移転構想への対応」に明け暮れた年であったと言えます。

まず、5月20日の総会での承認の後、直ちに「駅前複合施設へのキャンパス移転に反対する」署名活動に着手しました。県内同窓生、各支部宛に書類を送付し、計1万4522名の署名をいただき、6月22日知事に提出しました。同時に県議会各派への要望書を提出しました。これらの活動により、県民世論の高

まりから、県の複合施設案は撤廃を余儀なくされました。 11月に入り、さまざま組織団体から高知女子大学の原点である永国寺キャンパスを残そうという声が上がりました。永国寺キャンパスを残し発展させる連絡会を組織し、県議会議長への永国寺キャンパス存続の署名活動へと繋がりました。 12月11日、18712名の陳情署名を議長に提出しました。 駅前へのキャンパス移転は、白紙に戻りましたが、県と大学との改革に対する話し合いは進まない状況で、同窓会としてどのように母校を支援していくかが役員会で常に話し合われました。

役員会の開催状況と内容は下のとおりです。 会報の発行、会員名簿の整理、支部強化等の従来の活動に加えて大学問題に対応する目的で設置された、企画・渉外係が大変活動していただいた1年でした。 18年度をもって、役員は改選されました。松崎淳子会長には2期4年間、昼夜を分かたず、母校の発展のため、同窓会長として大変なご尽力をいただきました。心より御礼申し上げます。

(しらさぎ会前副会長堀内和美)

18年度役員会の開催状況

第1回平成18年6月15日(木)18:30~20:45 審議①「駅前複合施設へのキャンパス移転に反対する」署名の今後の予定について②支部への派遣、11月11日 東海支部・未定、11月23日 京阪神支部(京都)・松崎会長。6月25日 愛媛県支部・山崎美恵子先生 ③功績のあった教授への謝礼について④退学者の会費について⑤誌上座談会会報第40号に掲載の座談会の人選 報告①平成18年度総会について②「駅前複合施設へのキャンパス移転に反対する」署名について。 県内卒業生、各支部役員に送付 計11,212名③学長諮問会議で提示された中長期計画の内容について④顧問 第2回平成18年7月20日(木)18:30~審議①会報について 誌上座談会「同窓会は本来どうあるべきか」5ページ程度8月6日午後1時~座談会②会報郵送の際の広報資料③寄付金用途別寄付金を募ること④逝去された在学のご家族へのお悔やみの手紙について 報告①知事への署名提出6月22日14,522名分②県議会傍聴 本部4名、支部5名傍聴 県議会各会派に駅前複合施設についての要望書を提出③大学運営会議について④ホームページ⑤奨学金返還滞納について 第3回平成18年8月17日(木)18:30~20:40 審議①9月県議会への対応について(請願書)②会報編集内容等の確認 報告①県議会議長からの要望、駅前キャンパス反対の請願は出さない 第4回平成18年9月7日(木)18:30~21:30 審議①請願書について報告①学長との会見 第5回平成18年11月2日(木)18:30~審議①大学改革に関するしらさぎ会の今後の活動方針について 永国寺キャンパス存続活動②署名活動③駅前複合施設に関するアンケートについて→提出する④今後の計画 報告①第4回役員会以降の報告、県議との会見、女子大ノートに「卒業生の声」掲載②9月県議会報告③10/29音楽とトークの集い、協賛・参加報告 第6回平成18年11月16日(木)18:30~報告①永国寺キャンパスを残そう実行委員会への参加。永国寺キャンパスを残し発展さ(※次頁へ)

▼平成19年度総会のように。最前列には本年の顧問を受けてくださっている文化学部の清原泰治先生のお顔も...



平成19年度活動計画 強化、学生への支援(奨学金・寮)などの活動は、継続するとの方針が承認された。 学長からは、大学と同窓会とのパートナーシップに期待するとの発言があり、また会場からは、これまで以上に意思疎通を図ることに努めよとの意見もあり、さっそく学長・会長の特別対談の実現となりました。

しらさぎ会(本部)新役員

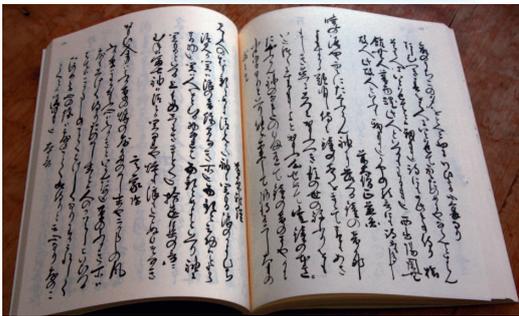
Table with columns: 役割, 氏名と所属・卒業学科. Rows include 名誉会長(山根 洋右), 顧問(大村 誠, 清原 泰治), 会長(宅見 美佐子), 副会長(川口 順子, 坂本 美和), 書記(竹崎 久美子, 嶋岡 暢希), 会計(川村 真美, 尾崎 充代), 広報(塩見 安代, 上村 絵理菜), 支部強化(彼末 富貴), 企画(山重 慶, 橋村 夏世), 会計監査(西岡 たか子)

高知市梅ノ辻の喫茶店ガルボで開かれる「眠りかけた脳をさます会」



生田先生。本日は桜について話の花が咲いた

▼細川幽斎筆の『新古今略注』



# 恩師はいま

## 「趣味」シリーズ

役にも立たない為にもならない話

定年から随分の年月を経てすっかり出不精になっていった男性が、月に二度開かれる生田先生の会には、そそくさと実に嬉しそうに出かけて行くという話を聞いた。「ホントに面白い。月二回が待ち遠しい!」のだと照れもせずに表情をほころばせるおじさんたちと、生田先生はいったいどんな会を開いているんだろう! 興味津々で生田先生に「人生の趣味および美しい日本語と遊ぶ会」について寄稿していただいた。(会報編集室)

# 美しい文字による 美しい日本語と遊ぶ

生田 勝彦

定年退職して五年目になるこのごろ、つくづく思ったり行動したりしていることがある。それは、これまでの人生で物事を始めようとするとき、いつでも「どんな役にたち、どんな意味があるのか」とか、「誰の為に、どんな為になるのか」とかを、先ずは意識して、自分なりの決着をつけてから行動してきたことである。

教員生活四十年、常に、周囲という規範意識が自

分より優先していた。それから解放されて、自分だけの範囲になっても、まだ、自分の為になるのかと執着する。特定の規範意識の中で、益を求めて生きる。なんとコセコセとした小人的な発想であるとか。定年退職して五年にもなるのに、なぜもつと純粋に、「楽しそう面白そう」を優先させないのかと、ウジウジしている時、出版関係の仕事に就いている高知女子大の卒業生から喫茶店

良識的な奥様方にも参加反対を唱えられなかったチラスの一部

生田勝彦先生の「脳を覚ます」

眠りかけた

中世文学の専門家・生田勝彦先生にまず話題を提供していただき、「脳に効く生活習慣」を少しずつ身につけていくことを、楽しみませんか。

お申込み先  
お申し込み先  
お申し込み先

お申し込み先  
お申し込み先  
お申し込み先

に呼び出された。

彼女は、団塊世代の男性の動向などの四方山話をするなかで、わたしの担当する文化講座の出席者は、どんな人たちがかを尋ねてきた。九割以上が年輩女性だと答えると、「では年輩男性は何をしているのでしょうか。そういう男性を引きずり出しましょう!」と展開した。彼女の企画の中で、いつの間にかわたしは、利用される参加者になっていた。

「役に立つ」とか「為になる」とかは標榜したくない、というわたしの主張を入れて、そのまま「役に立たない会」とか「為にならない勉強会」とかするのも語呂が悪いし、どぎつい。これでは、ゆとりある好事家には面白くても、送り出す良識的な奥様方は、参加反対を唱えるであろう。

このあたりは彼女に一任すると、後日、「眠りかけた脳をさます勉強会」という奇抜な名称に収まった。  
「美しい文字による美しい日本語と遊ぶ」というのが、わたしの念願だったので、細川幽斎筆の『新古今略注』(影印本)を覗いてみることにした。喫茶店でコーヒーを飲みながらの遊学・趣味の世界である。

参加者は制限公募されたらしく、十名以内だが、相当なキャリアの方たちである。みんな楽しそうに熱心に机を囲む。それが当方にも伝わって和やかな雰囲気になる。ただ心がけるのは、課題を出したり指名したりをしないことである。そうすると「勉強会」になってしまう。参加者が好んでする質問や意見は遊びになるから、それは止めない。少々高踏的なのだが、時間や規範意識に追われないで、悠々と生きたいのである。【※生田先生の連絡先

780-8040 高知市神田831の7の203  
mail:zeami@cameo.plala.or.jp

編集後記  
▼年に一度開かれる大事な総会の報告については従来資料をそのまま掲載していましたが、文章で説明する方が解りやすいのではないかと役員引き継ぎ会で提案をいただき、今号ではこんな形になりました。(塩見宏代 上村絵理菜)